

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

第4章

人間サイエンスの会

—国会議員の潜在能力の研究会—

本会は、超党派国会議員約20名により
1997年3月に設立された。
以来、議員会館に毎月1回、
講師を招いて講演を聞き、
議論を続けて来た。

2004年2月26日の会合で第56回となった。

国際生命情報科学会（*ISLIS*）の何人かは、本会の講師をつとめ、
また準会員として参加している。

人間サイエンスの会

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

人間サイエンスの会 設立趣意書

1. 現代の限界

人類は叡智をもって進化してきました。世紀末を迎え、地球自体の存立すら危ぶまれる不安を感じざるをえない状況にあります。

即ち、学問・宗教はじめ文明すら限界に達したという閉塞感があります。

2. 発想の転換

時代を著しく変革し、進歩を勝ち取るには、ルネッサンス・コペルニクスの転換ともいわれるような新しい価値観の創造が不可欠であります。

しばしば天才といわれる人物が偶然の出来事に遭遇することによって変革が起こったと従来考えられて参りました。しかし、天才の出現を手をこまねいていても何の所産もありません。

一条の光を見つければ、凡人でもそれを辿る努力と好奇心を持たなければなりません。

3. ニューサイエンス

かつて、科学の限界は宗教によって拓かれ、宗教の限界は科学によってまた拓かれました。「やっぱり地球は回っている」のであります。

このように思いを至したとき、宗教にも似た現代における「不思議」を真剣に勉学研究することは、新しい時代を創造し、閉塞感を打破する一助となるのであります。

4. 人間サイエンスの会

本会は、人間の潜在能力を科学し、もって時代の進運に寄与せんとする叡智のある人の結集でありたいと願う者の会合であります。

どうぞ宜しくお願いいたします。

(志高ければ、気自ずから盛んなり 吉田松陰)

平成九年三月十九日

発起人 衆議院議員 山本 有二
参議院議員 北岡 秀二

人間サイエンスの会

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

(第2期報告書抜粋)

人間潜在力の一人よがりの主観論

人間サイエンスの会 会長 山本 有二
衆議院議員 (財務副大臣)

はじめに

「人間サイエンスの会」も、お蔭様で54回を数え7年程続いており、親しまれるようになりました。

このことは元より、各回の各界からのすばらしい講師のご来演、そして、会員をはじめ参加メンバーの質の高さによるものであります。

特に、文部科学省や、その傘下でいつも本会のアレンジを完璧にこなされる山本 幹男 先生、懇親の場を考案いただける 福岡歯科の皆様。そして、会員、準会員、本会幹事長の 北岡 秀二 先生と、正に強い味方あったればこそであります。

会長冥利に尽きるところであり、心より皆様方に感謝御礼申し上げます。

衆院選後の平成15年12月より、「人間サイエンスの会」は第三期として、新たな気持ちで出発し、その初回の第55回は、設立当初からの熱心な会員の文部科学大臣 河村 建夫 先生、本会幹事長の 参議院文教科学委員長 北岡 秀二 先生、そして 私と、3人の話でスタートを切ります。

引き続き第三期もよろしくお願い申し上げます。

国家政策として取り組むべき課題

本会が7年間程取り組んできた、「人間の潜在能力」こそは、21世紀に開花させるべき大課題であります。国家発展の源は、国民の高い能力とやる気の「気力」です。

人間サイエンスの会

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

人間には今科学界が理解しているより、もっともっと大きな能力が内在しております。

それらが開花し、国民一人一人の能力が大きく発展すれば、教育、健康増進、病気の予防、文化の発展、生き生きとした社会創造、産業の活性化に大いに貢献することは、まちがいありません。

このための科学研究を発展させることは国家的急務であります。

山本 幹男 先生が理事長の 国際生命情報科学会 (ISLIS) や 渥美 和彦 先生が理事長の 代替相補伝統医療連合会議 (JACT) 等に結集している多くの研究者達は、現在政府の援助もなく、四苦八苦しながらも、地道な研究を続けて、日本から世界へ向けて国際的情報を発信し続けております。これらを急速に発展させる必要があります。

米国、旧ソ連や中国では、潜在能力の研究に国家予算を割いて来ました。

米ソでは特に情報活動への応用に重点が置かれていました。これには、人間のもつ特殊な情報処理能力・直観力が必要なことは言うまでもありません。また、中国では国家規模で優れた特殊な能力者の発掘と育成が行われました。これは新しい科学・技術の種を独自に確保し、西洋優位の科学技術の現状を、次世代・次々世代には逆転しようという長期展望に立った取り組みです。

我が日本においても、科学技術を激変させるような種の研究にも積極的に投資することが肝要です。

さらに、米国では1992年以来、西洋医学以外の東洋医学的なものを含めた「補完代替医療」のためにも研究予算を出し、2003年には年間300億円にも増大しています。

この背景には、国民の立場に立った医療を希望する国民の大きな声と共に、際限のない医療費増大の重圧の解決策を政府がここに見い出そうとしているからです。

日本も、教育や産業に大きな問題をかかえ、また医療費財政状況が悪化の一途をたどっておりながら、本課題への国家としての取り組みが大幅に遅れており、国家政策として強力に促進する必要があります。

人間サイエンスの会

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

本会は、国民の幸せの増大のために、この大きな目的に取り組んで行きます。

人間潜在力の一人よがりの主観論 －耳学問の途上にて－

深い思索の後に、わかりやすく解説して下さる講師の先生方のお話を聞きながら、私自身の肉体や精神に尋ねて、もしかしてこうではないかという思いを綴らせていただきます。題して、「一人よがりの主観論」であります。

(1) 孤独の楽しみの全ては、孤独になったとき、「どのような意識状態でいられるか？」で、その人の能力がさらに開発、発展できるかが決まってくると思います。

小林一茶、「やれ打つな 蠅が手をする 足をする」孤独の中で会話する相手もなく、清貧の極みにありつつ、蠅の観察で時を過ごす。

「天上大風」との頼りない、まるで力強さのない筆跡。栄養不足の身体のままに、書いた墨筆。

そこに、肉体や体力は貧弱なれども、精神は病んでいない姿を感じるのです。だから、免疫力は高く、生命としての力は強く当時としては異例の長生きをしているのです。

孤独のとき、「プラス思考」になるか否か、今風にいえばこれが第一の要諦であります。

(2) 次に孤独状態の長時間の思索から帰結される客観視の意識が重要であります。つまり、一人でいて自分を見つめることができるか、であります。

何を客観視するかといえば、「己」であります。自分自身の肉体や精神を客観的に視ることができるかどうか。

私は今、紙に字を書いています。この私を別の私が、天井の方から、私の背中を視ることができるか、という、少し異常性を加えた意識にな

人間サイエンスの会

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

りうるかであります。

これは、臨死体験のとき必ずでてくるシーンの一つであります。実際には、覚醒していて視ることが出来るはずもありません。「夢うつつ」あるいは「そのような意識が理解しうる」という程度でよいと思います。

そうすることができれば、潜在力を発揮する、意識の一つの状態を作り出せることが出来ていることとなります。

(3) さらに、孤独状態の客観視を自分で楽しめれば、次の段階で、意識の塊をどこにおくか。とくに、地球の真中においたり、太陽、あるいは天上、においたり。

そして、一番大事な丹田や足心においたりするという作業が可能になっていると思います。

強く、堅く、熱く、深く、この意識の塊を感じ取り、それを大切に、自分の身体の中に位置付けること。これによって能力というのは飛躍的に高まるように思われます。

そして、自分の身体の中の変化や喜び、苦痛を自分自身が感じ、それを自分の身体に聞くことが出来るようになれば、もっと意識レベルの上位の段階に入ってくるように思われます。

(4) 例えば、高岡先生の「身体意識」、また、西野先生の「足芯呼吸」、成瀬先生のヨーガの実践、等々。地球上で聖者といわれた人々の記録しかり。これら全て、潜在能力を生かす人の全ての共通点は孤独感を大切にすることから出発していると思います。

以上

しかし、これらの結論は少し違うかもしれません。それは、私が耳学問一人よがりであるからです。また、読まれた先達の皆様から御指南いただければ幸甚であります。

人間サイエンスの会

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

(第2期報告書抜粋)

「人間サイエンスの会」に学ぶこと

人間サイエンスの会 幹事長 北岡 秀二
参議院議員 (参議院文教科学委員長)

昨今、私たちは凶悪犯罪や少年犯罪の急増加に驚かされるばかりか、その犯罪や少年犯罪の原因の多くが至極短絡的かつ直情的で忍耐力や規範意識の希薄化や保護者の監護能力の欠如などに起因していることにも驚かされます。

今や世代を問わず、社会全体の歪がこうした犯罪や事件に現れていると言えるのではないのでしょうか。これまで常識とされていた社会規範や道徳心などに限らず、何時しか私たちは生きることに対する活力や潤い、そして人生における夢や希望さえも失いつつあるように思われてなりません。

こうした現代社会を見るにつけ、私は政治に携わる者の一人として、私たちが失った大切なものを「政治」と言う視野に立って常に追い求めています。特に参議院文教科学委員長に就任以来、日本の国造りの基礎となる教育行政を通じ、活力・潤い・夢・希望を抱いた人間造りに早急に取りかからなければならないと考えています。

そんな私にとって本「人間サイエンスの会」は、その失いつつある大切なものを強く持ち続けている諸先生の方々と出会える貴重な場であり、諸先生方の講演を拝聴する度、時に自身も忘れかけていた何かを呼び起こしてくれる時があります。

現代社会において、これまでの価値観が揺らぎ始め、自信喪失感や閉塞感が広がる中、教育は、国民一人一人が自らの生き方、在り方について考え、向上心を育て、個性に応じた自己の能力を最大限に伸ばしてゆく柱にならなければなりません。また、日本の科学技術の進歩は世界の発展と課題解決に大きく寄与している中であって、未知なる分野に果敢に取り組み、常識に囚われない更なる新しい創造が待ち望まれています。

人間サイエンスの会

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

私は、今後も本会において諸先生方の講演を拝聴させて頂きながら、自己の研鑽もさることながら、教育行政に生かすヒントを与えて頂くと共に、諸先生方のように創造性に富み、実践的能力を備えた多様な人材の育成を図るべく、研究教育の充実など「政治」の立場から支援をしてゆく所存でおります。

最後になりましたが、本会も平成9年3月の設立以来、前回の開催で第54回目の開催となりました。平成15年4月16日には、「第50回記念パーティ」もホテルニューオータニにて開催されました。

平成15年12月11日の第55回からは、本会も第3期の活動を開始します。これも一重に会員の皆様方のご協力の賜と本会幹事長として感謝申し上げます。

また会員の皆様におかれましては、今後益々のご活躍を心からお祈りの申し上げます。

人間サイエンスの会

2004年3月13日発行本「潜在能力の科学」からの転載
肩書き等は当時のものです。

第55回 人間サイエンスの会 第3期記念特別講演

日時 平成15年12月11日(木) 午前10時～12時
場所 衆議院第1議員会館 第1会議室

ご挨拶 かわむら たけお
河村 建夫 先生 文部科学大臣
人間サイエンスの会 会員
前 衆議院 文部科学委員長
国際生命情報科学会 (ISLIS) 特別顧問

講演 **21世紀の人間サイエンス**

講師 やまもと ゆうじ
山本 有二 先生 衆議院議員、弁護士
人間サイエンスの会 会長
財務副大臣
元 法務総括政務次官、元 自治政務次官
国際生命情報科学会 (ISLIS) 特別顧問

講師 きたおか しゅうじ
北岡 秀二 先生 参議院議員
人間サイエンスの会 幹事長
参議院 文教科学委員長
元 法務政務次官、参議院 行政監視委員会 委員(元 理事)
国際生命情報科学会 (ISLIS) 特別顧問